

## 蓼科の俳句を作る

長野県俳人協会 窪田英治先生

実施日：令和4年7月11日（月）



前回に引き続き、長野県俳人協会の窪田英治先生をお招きし、実際に生徒が作った俳句の添削をしていただいた。まず俳句作りのイメージを膨らませるため、白紙に言葉を書き込んでマインドマップをつくり、連想していく手法を教えていただいた。そして実際の添削として「季語が必要である、また季語の重複は避けること」「説明になりすぎない」「情景を読み取ることができること」「リズムが大事である」など、適切なアドバイスをいただいた。わずか17文字に情景を落とし込み、自分の思いを伝えることの難しさを実感したし、逆にそれがまた楽しいことであるということを教えていただけた。

### 【生徒の授業日誌より】

・ドロップスから、味→フルーツ→色→虹を連想し、そこから「秋の虹砕きて作るドロップス」になるのがすごいと思いました。俳句の中に季節の言葉を入れるのが難しかったです。

・学校のことで俳句を作ると、いろいろありすぎて難しかった。文字が合わなかったり、足りなかったりと言葉を合わせるのが大変で上手にできなかった。けれど、俳句の先生がいろいろなアドバイスをくれて俳句を作ることができました！ありがとうございました。

・最初はわからなかったけど、先生が教えてくれたやり方でやってみたら、最終的に1つ俳句を書くことができてよかったです。俳句はとにかく思いついたことを書くことが大切だと感じました。

・最初はアイデアを連想してまとめようと紙に書こうとしても、なかなか繋がらず大変だったが、一度書いてきたらいい感じにまとまっていきました。アイデアを出して実際に俳句を書くときは、なかなかうまく繋がらなかったが、窪田先生が丁寧に直してくださり、うまく俳句ができたのでよかったです。

・人間は興味のあるものにしか名前を付けないといこうとが印象に残りました。私も今思えば意味があるから呼び名があると思いました。あと西洋では肉をよく食べる文化があり、肉の部位により名前があったりして、文化によって名前のあるもの、ないものがあるとわかりました。そのため自然に興味をもつ文化がある日本では、自然のものへの名前がいっぱいあるということもわかりました。